

## まちびらきから1年 うめきたに生まれるイノベーションの芽

2013年春にまちびらきした「グランフロント大阪」、そして、その中核施設である知的創造拠点「ナレッジキャピタル」。まもなく開業1年を迎えるなか、西日本最大のターミナルである大阪・梅田の目の前で、どのような取り組みが行われているのか、また、そこでどのような新しいアイデア、モノやサービスが生まれているのかを紹介する。

### ナレッジキャピタル開業後の動き

#### ■数字でみるナレッジキャピタル

2013年4月26日にまちびらきしたグランフロント大阪は、開業5カ月で東京ディズニーランドの年間入園者数に匹敵する2,700万人を集め、1年近くが経つ今でも1日あたり約10万人が訪れるなど、大阪・梅田の新名所としてすっかり定着している。

その中核施設であるナレッジキャピタルでは、多様な人々の「感性」と「技術」の融合により「新たな価値」を生み出すことをめざし、さまざまな活動が展開されている。新たな出会いと交流のための会員制交流サロン「ナレッジサロン」では、会員数が当初の想定を大幅に上回る1,755名(2013年12月末時点)に到達。サロンでは、さらに新たな機能として「プレゼンラウンジ」を増設しスペース拡張を行うことが予定されており(本年3月中旬)、活動がさらに活性化することが期待される。



ナレッジサロン

#### ■商品開発の萌芽

ナレッジキャピタルでは、早くも新たなコラボレーションが芽生えている。

京都大学発のベンチャー企業、GLMが開発した国産初EVスポーツカー「トミーカイラZZ」。現在、三木楽器の提案により、アクティブラボに展示してあるそのEVカーに、走行音を付けるプロジェクトがスタートしている。さらに、国内産業用の拡張現実(AR)技術で大きなシェアを占めるウエストユニティスも参画し、ウェアラブル端末によるバーチャル試乗体験についても開発が進んでいる。



トミーカイラZZ(左)と三木楽器ブース(右)

#### ■国際交流の進展

ナレッジキャピタルは、世界でも類を見ないイノベーション拠点として、海外からの注目度も高まっている。すでに17カ国・地域から40を超える機関や団体が訪問した。

2013年7月には「香港サイエンス・テクノロジーパーク」と「香港サイバーポート」から使節団を迎え、ピ

ジネスマッチング等を実施。12月には、ナレッジキャピタル参画者による香港視察ミッションを実施し、日本と香港の企業間の人事交流や事業提携を促している。

また、同じく昨年7月には、欧州最大規模の再開発計画を進めているフランス・リヨンからも、市長を団長とした視察団を迎えた。

このように、ナレッジキャピタルは、アジアのゲートウェイとして世界中からの期待を受け、着々とその拠点機能を強化している。



リヨンからの視察団

### ナレッジキャピタルにおける 当会の取り組み

当会では関西イノベーション国際戦略総合特区を推進しており、うめきたを特区の中核拠点と位置づけ、情報発信や人材交流に取り組んでいる。その中からいくつかの事例を紹介する。

#### ■けいはんな情報通信フェア

2013年11月、関西文化学術研究都市(けいはんな学研都市)の最先端

の情報通信技術を紹介する「けいはんな情報通信フェア2013@うめきた・ナレッジキャピタル」を開催した。イベントでは、200インチ裸眼立体ディスプレイを使った海龍王寺(奈良市)の国宝等の3D映像の公開が初めて行われた。また、画像をタッチして簡単に検索できるイメージファインダーも展示され、多数の来場者でにぎわった。このイベントは、イノベティブな取り組みとして「ナレッジイノベーションアワード2013」にもノミネートされている。

さらに、文化遺産をデジタルアーカイブ化して発信し、海外から集客をはかることを目的としたストックフォトサイト「Wabi-Sabi NARA(仮称)」を制作しており、本年4月の公開を予定している。



けいはんな情報通信フェア風景

### ■健康科学ビジネス推進機構

大阪市立大学がナレッジオフィスに「健康科学イノベーションセンター」を開設したのにあわせ、当会が関西バイオメディカルクラスター健康科学推進会議と連携し設立した「健康科学ビジネス推進機構」をオフィス内に移転した。当会では、同センターと有機的に連携するとともに、ナレッジキャピタルに参画するロート製薬等の会員企業とイベントを開催し、健康科学分野における産業創出の推進をはかっている。また、同機構では、健康科学の視点から優秀な取り組みを表彰する新たな制度を創設することを予定している。

### ■PMDA関西支部開設

2013年10月、医薬品や医療機器の承認審査を行う独立行政法人「医薬品医療機器総合機構(PMDA)」の関西支部がナレッジキャピタルに開設された。東京都外初となる事業所として、製薬企業やバイオベンチャー企業から、医薬品や医療機器の承認審査に必要な試験や治験についての相談業務に応じている。本年4月からは、人員を増やし医薬品製造管理の国際基準(GMP)の実地調査業務も開始する。

### ■うめきた2期区域開発

2013年12月、グランフロント大阪に隣接するうめきた2期区域開発の民間提案募集に対し、40社(国内23社、海外17社)から提案書が提出された。本年3月下旬には優秀提案を決定し、「まちづくりの方針」が検

討される予定である。

当会としては、うめきた・特区専門委員会(専門委員長：香川次朗・関西電力副社長)を中心に、うめきた地区全体として国際競争力強化と国土強靱化に寄与する拠点となるよう提言を行っていく。

(産業部 石井輝彦)

### 「ナレッジイノベーションアワード2013」授賞式を開催

ナレッジキャピタルの参画者を対象に、ナレッジキャピタルで生まれた最もイノベティブな製品や活動を選考し、広く社会に発信します。授賞式は公開にて行います。皆さまのご参加をお待ちしております。

日程：2014年3月17日(月)

場所：ナレッジシアター(北館4階)

お問い合わせ：

「Knowledge Innovation Award 2013」事務局 (TEL:06-6229-1801)

## ナレッジキャピタルのこれから

### 寄稿

ナレッジキャピタル総合プロデューサー  
野村 卓也氏



ナレッジキャピタルの最大の特徴は、多様な人材の知の集積と交流にあります。大阪駅前の複合施設という利点を生かし、専門家やビジネスパーソンと一般生活者が交わる場を作りました。

ここでは「知的生産」とこれからの社会で本格化すると思われる「知的消費」の仕組み化を同時に進めています。これを総称して「ナレッジイノベーション」と名付けました。あえて「ナレッジ」と付けたのは、単なる技術革新ではなく広い知恵と知識による変革をめざしているからです。『E(Economy)からではなくR(Relationship)からスタートするイノベーション』—最初にビジネスモデルや事業性を考えるのではなく、まず人間同士の関係性を作り、交流を深めていく中から信頼感を醸成したうえでさまざまなテーマやプロジェクトを生み出していく、大阪発らしく人を中心にした方法論です。

その一つとして、国際連携についてもビジネストリップやクロスマーケティングといった具体的で中身のある交流を行うことから始めています。幸い海外からも多くの方々が来場し関心を持っていただき、さまざまな取り組みが始まっています。

魅力的な文化と歴史を背景に、大阪・関西から次代をリードする新しい文化と経済を創る。それをナレッジキャピタルの使命として、日々の運営と次の一手を構想、設計しています。